



第41回 日本図書館協会 図書館建築賞受賞記念号

2025 / 秋 / No.123
来ぶらり



株式会社日建設計 竹内 稔様

山田 澄生図書館長

利用者が選ぶ「大学図書館おすすめ賞」を発表します！

令和5年4月に完成した新・大学図書館が「第41回日本図書館協会図書館建築賞」を受賞しました！ 令和7年10月30日（木）に開催された第111回全国図書館大会愛媛大会で表彰式が執り行われ、学習院大学図書館を代表し、山田澄生図書館長が出席しました。

今号の特集では「図書館建築賞」の受賞を記念して、5名の利用者の皆さんに「大学図書館おすすめ賞」を選んでいただきました。今まで気付かなかった魅力や共感できる活用方法がそれぞれ「おすすめ賞」として紹介されています。皆さんも多彩な個性を持つ大学図書館をめぐって、自分だけの新たな「大学図書館おすすめ賞」を見つけてみてください。



撮影：高橋菜生

空き時間潰しに
ピッタリで
賞

文学部日本語日本文学科3年
紺花さん



私がおすすめしたいのは図書館5階の階段側にある文庫本です。幅広いジャンルの本が所狭しと並べられています。GLIM/OPACで検索してから探すのも良いですが、気になったものを手に取ってみると知らなかった分野の知識が得られて楽しいです！



癒され
ソファ
賞

経済学部経済学科3年
トマトさん



私のおすすめスポットは、5階のソファースペースです。ここには、時間帯を問わず癒しを求める人たちが集まっています。

私はいつもレポートを提出し終えたあと、そのままの流れで立ち寄り、レポート作成の疲れを癒します。時間を忘れてのんびりしたいそのあなた！ぜひ一度、利用してみてください。きっとお気に入りの場所になるはずです。



近未来
賞

法学部政治学科1年
ごりさんじょさん



私のおすすめは大学図書館入口です。入館するために学生証をかざせば、近未来的な入館ゲートから、近未来的な効果音が流れます。まるでテーマパークのようなこの入口にいつも心が弾みます。意味もなく何度も入場したくなる入口に、私は「近未来賞」を贈呈します。



イマジネーション
賞

文学部フランス語圏文化学科2年
ハナさん



大学図書館は私にとって「想像力を刺激してくれる場所」です！

エレベーター横の小窓からグラウンドに目を向けるときや、集密書架で本を探して棚から棚へと視線を移すとき、実際には起こっていない出来事が目の前に浮かび、日常から離れた世界へと誘われるように感じます。



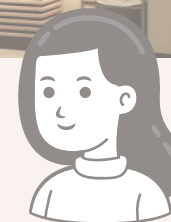
発表！
大学図書館
おすすめ
賞

「日本図書館協会図書館建築賞」は、建築としての質だけでなく、その建築を活用した図書館サービスの質も評価対象となっていますが、大学図書館を利用される皆さんにも、それぞれ独自の基準による評価ポイントが館内にあるようです。今号ではそれぞれの「推し」に独自の賞を贈ってもらいました。「建築賞」のサイドストーリーをお楽しみください！

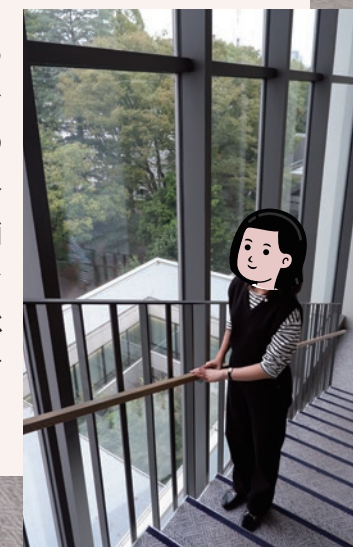
エレベーターじゃ
出会えない
風景で
賞

人文科学研究科哲学専攻
博士後期課程2年

マンゴーさん



大学図書館は、どの階からも良い眺めが楽しめるのが魅力です。中でも6階と5階をつなぐ「のびやかな階段」からの景色は格別で、特に夕暮れ時はまるで映画の中に入り込んだような静かな感動があります。たまにはエレベーターではなく、階段を上がってみてはいかがでしょうか？



学習院ミュージアム ー生まれ変わった旧図書館ー

霞会館記念学習院ミュージアム・学芸員 富田ゆり

旧大学図書館は、近代建築の巨匠・前川國男が1963（昭和38）年に設計した建物です。躯体は14.4メートル四方のキューブを千鳥状に組み合わせたシンプルな造形で、3階建ての図書館と別に設けた6層の書庫を生かして、低層ながらも収蔵スペースを無駄なく使用できるように構成されています。

館内に足を踏み入ると、かつての無柱の大空間だった閲覧室は美しい展示空間に生まれかわりました。

注目していただきたいのは、外観を特徴づける鉄筋コンクリート打ち放し風の塗装です。創建当時の打ち放しコンクリートを想起させる塗装で耐久性を高めつつ、設計当時の意図と歴史を今に伝えています。装飾を省き周囲の自然を生かした素晴らしいミュージアムへ、ぜひいらしてください。



理学部物理学科
町田 洋 教授

テレビやゲーム、マンガといった娯楽に興ずることが許されない環境で育ちました。自室の壁紙に無造作に刻まれた模様をじっと眺めていると浮かび上がってくる奇怪な生き物を空想の中で遊ばせる少年時代でした。

“文学”との出会いは中学校の図書館の片隅で雑然と積まれた近隣住民からの寄贈図書の中に成人向けの小説を見つけたときでした。以来小説

を読むことが秘かな楽しみとなり、空想の世界が広がりました。写真1は研究室の本棚の片隅に隠し持っている小説本です。多感な時期をともに過ごしたためか、捨てられずにいます。大学4年生で旋盤を回すことを実験物理と勘違いして研究にのめり込んでからは、小説からは離れていきました。客観的事実を積み上げていくことを生業としながらも、しかし私の心は曖昧で不確かなものを描こうとする小説によって形作られたのかも知れません。写真2は日々の研究の助けとなる専門書を収めた研究室の表向きの本棚です。今しばらくは研究に没頭したいのですが、いつかまた小説の世界に舞い戻りたいと思う今日この頃です。



写真1



写真2

来ぶらり No.123 2025年11月15日

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

発行責任者：図書館長 山田澄生 編集委員：生田陽子・山脇治

総合カウンター（内線 2397）： ☎ 03-5992-1009（直通） レファレンスカウンター（内線 2396）： ☎ 03-5992-9249（直通）

「来ぶらり」のバックナンバーは大学図書館Webサイトで公開しています。



ISSN 2186-6724